

無床診療所マネジメント論の探求
— 歯科診療所組織有効性に関する実証研究 —

学 生 番 号 200883
代 名 永山 正人
研究指導教員 穴沢 眞
研究指導教員 玉井 健一

平成 23 年度提出

学位論文内容要旨

医療機関（病院・診療所）の目的は、良質の医療を国民に提供し、国民の健康、福祉に寄与することである。良質の医療の提供とは、健全な医療機関の経営を基礎としている。しかし、無床診療所、特に歯科診療所の経営状態は厳しい内容が示されている。そこで、歯科診療所を研究対象とし、「組織有効性」に関する実証研究を実施した。

本研究の目的は、「管理者行動」「従業員」「組織構造」「戦略」を歯科診療所の組織構成要素と考え、優れた歯科診療所の特性を体系化するために次のような調査課題を設定した。

- ①第 1 は、歯科診療所の組織構成要素間の関係とその要因及び組織有効性との関係の明確化
- ②第 2 は、管理者行動に影響している組織要因の明確化
- ③第 3 は、組織有効性に影響する管理者行動及び、組織要因の体系的な見解である。

この目的を達成するために、北海道歯科医師会会員に対するアンケートを実施し、統計的分析により結論を導く実証研究を行った。

その結果、管理者行動により組織有効性は異なる結果が示され、その要因は、歯科診療所の組織構成要素の管理者の採用の違いによることを発見した。また、歯科診療所の組織構成要素である「従業員管理」と「組織特性」との関係が明確になり、「従業員管理」「組織特性」が「戦略的運営」に影響を与え、「戦略的運営」が「組織有効性」に影響を与えていることが検証された。

これらの結果から、理論的インプリケーションは、管理者行動論に対する新しい分析視点の提示という貢献を示した。実践への提言においても、組織構成要素が向上することによって、歯科診療所の組織有効性が向上することを Potential force を使って提言している。